

令和元年度
外国人教員短期招へいプログラム実施報告書

令和2年2月20日

三重大学長 殿

招へい期間における実施報告書を、添付のとおり提出いたします。

1. 被招へい者 所属・氏名 南洋理工大学（シンガポール）・国立教育学院・准教授 Teo Chin Soon Peter
2. 受入研究者 所属・職・氏名 教育学部・教授・後藤太一郎
3. 招へい期間 令和元年12月7日 ～ 令和2年1月12日
4. 活動実施の内容とその成果 滞在期間に、Teo 先生は英語教育コースの授業や留学生を対象とした授業、および久講演を行った。 (1) 授業 ・英語科教育入門 シンガポールの教育の様子について映像による授業が行われた。子どもたちは、小学生の頃から 勉強し遊ぶ時間もない様子で、勉強がかなりハードで教育熱がよくわかった。小学校の学業成績で将来が決まっていく教育システムを知って驚きと共に、日本の小学生のほうがまだストレスがなくのびのびしているという印象を持った。 ・リーディングの教授方法 分からない単語があっても前後の文で内容を予測する練習をした。have が「食べる」などの意味を持つように、多義語の場合は推測しながら意味を考えたりする実践的な方法を体験的に学んだ。 ・ライティングの指導法 ライティングの授業のやり方によって鍛えるポイントが違うことを学んだ。1つ目は、教師がライティングの課題を出して生徒に書かせ添削するタイプ、2つ目は課題の前に書き方のアドバイスを指導してから書かせるかタイプと分けて指導する方法を分かりやすく教えていただいた。またライティングの指導例では 10 個の文からなる物語を 1~2 文ずつに分け、グループで物語を完成させるというアクティビティをしました。文が書かれた紙は見せ合わず、机に順番に並べないで口頭で内容をお互い確認し合うという言語活動を行なった。 ・リーディング、ライティングの両方の指導法 指導者が一方的に説明するわけではなく生徒が協同して取り組み、行う言語活動の方法を多

く学んだ。スキルに関する授業はワークショップ形式で学生も常に思考を働かせ活動しながらの授業だった。

・リスニングⅡ

絵や写真を見ながらリスニングを行いトップダウン式に聞き取りを行ったり時にはスクリプトの穴埋めを行うなどボトムアップ式に聞き取ったりと多様なリスニング活動を通して、会話文やスピーチ、ニュースなど色々なタイプの英語を聞き取る訓練を行なった。

学生が英語につまんで即答できない時や自身がなく声が小さい時も辛抱強く最後まで聞いて下さり学生が英語を聞き取れなかったときは何度も音声教材をピンポイントで聞かせて下さり学生も安心して授業に集中することができた。

・言語研究Ⅰ

Teo 先生は英語教員であり、教室談話研究を専門としている。教室談話のタイプ、分析方法、対話的授業の目的と特徴について解説した後、Teo 先生が製作した「シンガポールにおける対話的授業」のビデオ先生が専門としている内容について講義が行われた。受講生は積極的に質問をして、最後に、学習したこと、質問、講義へのコメントを提出した。

(2) 教育学部における講演会

1月8日 12時40分から13時まで、教授会開始前の時間に講演をお願いした。NIEにおける教員養成システムや教員養成で大事にしていること、NIEの教員は通常の授業や教員研修はもちろん、教育研究に力を入れ、教育委員会や学校との強力な連携を築いていることをわかりやすくお話いただいた。



授業の様子



授業の様子



講演会



講演会

